

総 合 部 会

研究主題

生きる力を育む「総合的な学習の時間」の創造 ～探究的な学習を通して～

1 主題について

身につけさせたい力を明確にし、探究的な学習を通して自己の生き方を考えるとともに主体的に生きる力を育むために、本主題を設定した。

2 今年度の取組

月 日	実 践 内 容
4月13日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成
11月10日	第1回総合研究会 授業研究会（比内中） 実践事例の情報交換会

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成23年11月10日（木） ・会 場 比内中学校
- ・単元名 「キャリアレポートを活かして、来年の調査内容を探ろう」
- ・授業者 安部 寛

① 授業者から

- ・職場体験を3年間行っている（1年生は比内，2年生は秋田市で3年生は東京）。体験学習ありきだと体験がメインになり、生き方や在り方を考えることが不足するため、今年度はキャリアレポートの作成を行った。例年のように「まとめて終わり」からの脱却をしたかった。
- ・今の生徒には、人との関わりやコミュニケーション能力などが不足している。そのため、「共同」ということを要所に入れて探求させた。レポートを読み、アドバイスし合ったり、教師の感想を入れたりすることで、具体的に考えられるようアドバイスしてきた。

② 協 議

- ・この学習をするに当たって、今後の活動について生徒は見通しをもっているのか。
→体験学習を2年間やってるので先のことは分かっている。修学旅行はまだ話していない。
- ・なぜ、同じ職種の者同士のグループにしたのか。→助言しやすいだろうと考えたから。
- ・レポートは、どれくらいの時数で作ったのか。→I期に総合の時間2時間を使って作った。
- ・事前の職業適性シートはどのようなものか。→興味ある項目を選び、職業を絞り込むシート。
- ・グループでアドバイスするためには知識がいるが、どのように生徒は身につけているのか。
→体験学習が知識になっている。解決すると次の興味がわいて探究を始めている生徒もいる。
- ・指導案の中に、学活と総合的な学習の時間が両方書かれていたがどのように区別しているのか。
→学活は知識面，総合的な学習の時間は知識を活かす場だと考えている。
- ・職業適性について、各校では、キャリアマトリックス，適性シート，カードなどを使っていた。
- ・課題がないと，総合学習は進路学習として成立し



【同じ職種でお互いにアドバイス】

ない。指導案の単元計画の4までは学活の、5以降では総合的なねらいがあるべき。あるいは、メインである総合的な学習の時間の単元に、学活を参考的に付随させるように書いた方がよい。

(2) テーマ研究（各校からの実践紹介）

- ・課題づくりにおいて、教師の側からキーワードを示してテーマを設定できるようにしたり、人材バンクや家庭の人脈なども活用して実践している。
- ・コミュニケーション能力の育成のために、住民と交流し、防災マップを製作している。
- ・東日本大震災の新聞記事をポートフォリオにしたり、大館に避難されている被災者へのインタビューをまとめたりして、学校祭で発表した。



【流れを大切にされた板書と意欲的な発表】

(3) 指導助言（檜森 秀樹 指導主事）

- ・キャリアレポートへの取り組みやウェビングカードを使う手法も参考になった。教室に貼ったレポートだけでも他の生徒の考えを知ることができていたのではないかなと思う。
- ・特別活動で将来的な生き方について基礎を学ばせ、総合的な学習の時間にいかしている。ただ、特別活動と総合的な学習の時間が単元内で混同していた。単元に見通しをもち、テーマをはっきりと分けていなかったからではないか。生徒に本時で話し合ったことが修学旅行で検証する活動につながることを伝えた方がよかったのではないかなと思う。
- ・総合的な学習の時間では教師の願い、生徒の興味・関心、教材の特性をつかむこと、この三つが大切である。また、「これができればいい」という目標（ゴール）をはっきりと示す。
- ・シートは見やすくまとめられていた。中心になるものから広がりをもたせ、多くの書き込みができる点がまたよかった。探究的な学習ができるようになっていた。
- ・総合的な学習の指導案は「単元名」として計画する。単元の目標は具体的に、生徒がどのような姿に育っているかをイメージして書く。
- ・全体計画に指導要領で示された要素、育てたい力が明示されているかを見直す方がよい。「北の教育」や「秋田県の教育の指針」を参考にして欲しい。また、新学習指導要領全面実施にあたり、「キャリア教育の手引き」や文部科学省からの資料（「今求められる力を高める総合的な学習の時間」）を参考にし、ポイントを押さえてほしい。
- ・学級活動で行うキャリア教育は進路学習がポイントになるが、学級活動で取り扱う17項目が示されているので、重点を決めて時間配分を考えることが大切である。
- ・来年度、修学旅行で行く「東京」という教材の特性を活かし、生徒たちの興味関心、教師の願いをからめて頑張らせてほしい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・特活と総合を区別し、それぞれねらいを明確にして単元構成をすることを確認できた。
- ・3年間を見通し、ねらいをはっきりとさせた上で体系的に計画することを確認できた。
- ・各校の実践の紹介から、今後の総合学習を充実させるためのヒントを得ることができた。

(2) 課題

- ・学習指導要領の全面改訂によって来年度は時数が減少するため、各校においては年間指導計画の練り直しが必要となる。これまでの実践を活かしながらも、無理なく継続していくための工夫が必要となる。